

大阪駅北地区名称が「うめきた／梅北」に決定！

「都心に残された最後の一等地」として、大阪・関西の再生をリードする拠点づくりが進められている大阪駅北地区。大阪駅北地区まちづくり推進協議会（会長：平松邦夫・大阪市長、座長：下妻博・関経連会長）では、開発エリアが広く親しまれ、愛されるまちとなるため、地区名称の一般公募・投票を実施し、「うめきた／梅北」に決定した。

2月2日に大阪市役所で開かれた発表会では、平松市長から「いかにも大阪らしい名前。早く親しんでもらい、梅田全体が発展してほしい」と、うめきた開発への期待が語られた。

地区名称の公募

大阪駅北地区まちづくり推進協議会では、2010年8月26日から10月15日にかけて開発エリア全体の地区名称を募集した。

応募総数（有効数）は4,378件。当初予想の3,000件を大きく上回る数の作品が寄せられた。

通常、「東京スカイツリー（応募総数18,686件）」や「せんとかん（応募総数14,539件）」のような建造物やマスコットキャラクターの名称募集には数多くの応募があるが、場所や地域に対する名称募集への応募は少なくな

る傾向がある。うめきた開発と同様の、横浜駅周辺大改造計画で名称募集を行った際の応募総数は、2,380件であった（2009年8月実施、同年11月「エキサイトよこはま22」に決定）。うめきた開発にはこの倍近くの応募が寄せられており、開発プロジェクトに対する期待の高さが表れている。

加えて、応募者の住居地域を分類すると、大阪市内が約30%、大阪市内を含む近畿圏が全体の75%を占めるが、残り25%は近畿域外からの応募であり、海外からも応募が寄せられた。うめきた開発が国内外から注目を集めていることの名による左証である。

ちなみに応募者数は3,102名（複数応募可のため）、重複を除いた作品数は3,343作品という結果であった。

応募作品の絞り込み

応募作品3,343件から一般投票にかける候補を絞り込む作業は、4名の有識者からなる「大阪駅北地区名称候補選定委員会」（以下、委員会）で行われた。

委員会は当初2回開催の予定であったが、予想を大きく上回る数の応募があったことから、1回追加し、計3回開催された。応募作品の中からまず一次選考で30作品が選定され、さらに一般投票にかける最終5作品への絞り込みが行われた。

委員会による選定のポイントは、名称がいかに市民に定着するかとい

〈うめきた全景〉



大阪駅北地区名称候補選定委員会

委員長：江 弘毅

（編集者・「出版・編集集団140B」取締役編集責任者）

委員：朝原 宣治

（元陸上選手・2008年北京オリンピック銅メダリスト）

津村 記久子

（小説家・第140回芥川賞受賞）

服部 滋樹

（デザイナー・クリエイター・graf代表）

うことであった。江委員長は「難波、天王寺でタクシーに乗り、地区名称を伝えるだけで目的地に着く。そんな名前が理想」と語った。

もう一つのポイントは、一般投票にかける複数の作品を選ぶということ。選定委員の好みにより作品の傾向が偏らないようにすることや、字体を漢字、ひらがな、組み合わせなどバラエティーを持たせることも考慮された。

名称候補への一般投票

委員会で選定された5つの候補から地区名称を決定する一般投票は、2010年12月27日から2011年1月28日にかけて行われた。

投票総数は11,023票。「うめきた／梅北」と「ゆめきた」の2作品に投票の3分の2が集中した。上位2作品への投票数は最後まで拮抗したが、投票締め切り時点で「うめきた／梅北」が最も多くの票を獲得し、大阪駅北地区の新名称に決定した。

各名称候補の得票は次のとおりである。

・うめきた／梅北	3,791票
・ゆめきた	3,594票
・北梅田	1,832票
・梅田シティーヤード	1,247票
・おおさかきたまち	559票

名称の決定・公表

2月2日に開かれた地区名称発表



名称発表会の模様(左：江委員長 右：平松市長)

会では、江委員長が平松大阪市長に報告する形で「うめきた／梅北」がマスコミに発表された。

発表会の席上、平松市長は「いかにも大阪らしい名前。早く親しんでもらい、梅田全体が発展してほしい」と、うめきた開発への期待を語った。(地域連携部 松本史守)

地区名称候補と選定理由

うめきた／梅北

※漢字・ひらがないずれの表記も可能
梅田の北ということ、だれもが容易に連想できる。語感に「大坂的」な響きがある。

北梅田

「東梅田」「西梅田」とも関連し、だれにもわかりやすく呼びやすい名称である。

ゆめきた

新しく「キタ」に生まれる街に期待感や未来への発展性を感じさせる。

梅田シティーヤード

ヤードには「庭」の意味もあり、都心の梅田で皆が集える場所をイメージさせる。

おおさかきたまち

大阪駅の北にある街をひらがなで表記し、親しみやすく、わかりやすい名称となる。

～地区名称選定にあたり～

大阪駅北地区名称候補選定委員長 江弘毅 氏

長い間、大阪の街をさし向かいで取材・執筆しているが、新しい街の名前についてはある一定の傾向がある。「アメリカ村」や「南船場」など自然発生的に生まれたものと、「コスモスクエア」や「フェスティバルゲート」あるいは「OBP」など、誰かによって名付けられた、「それとわかる街の名前」との感覚的なギャップが大きいことだ。

名前に「いいネーミングをして人を集めてやろう」という「仕掛け」が少しでも感じられると、一気に「経済軸の空間」という側面が突出する。「街」は歴史や時間軸を包含した、厚みのある「実生活空間」である。

今回の一般公募～投票で気がついたのは、作成名称に添えられたコメントがそのあたりのことをきっちりしていることだった。

「梅田の北側なのでウメキタ。単純明快な名称です」に始まり、「どうせ英語の名前を付けても略されるし」「大阪人は天六、谷九、梅新、阪高など、縮めるのが得意。どんな格好よい愛称を付けても、結局ウメキタと呼ばれてしまいますよ」。

そういう手触りこそが、大阪の街の「街的」たる所以であるのだと思う。